

文献資料集成

〈学校から仕事への移行〉の形成

—日本の制度・実践・メディア—

第I期 制度・政策関係論 全5巻

監修・解題 ◆ 木村元 一橋大学特任教授 解題 ◆ 丸山剛史 宇都宮大学教授

学校と社会（仕事）へのつながりが転換点にある、いま、学ばべき資料

ここにち、学校から仕事への移行が新し段階にある。学校を出て仕事に就くよいうこれまでの当たり前のように学校と企業社会が繋がっていた仕組みが大きく動揺している。本資料集は、学校と社会との関係の転換点にあってこれまでの時代を見直すための材料を提供するものである。

(導入解説より)



高等学校家庭科における被服製作実習 『産業教育70年史』より



電波高等学校における通信実習 『産業教育七十年史』より

クレス出版

家庭のための教育手引き集

全6巻

朝日新聞社 編 解説 ◆ 木村元 A5判/上製函入/クロス装 揃定価 94,380円 (税込) ISBN978-4-87733-975-3 (セット)

- 第1巻 あすへの教育(小中学校) 定価14,300円(税込) ISBN978-4-87733-969-2
- 第2巻 あすへの教育(大学・幼年) 女子高校生 定価20,900円(税込) ISBN978-4-87733-970-8
- 第3巻 勉強力をつける 定価14,300円(税込) ISBN978-4-87733-971-5
- 第4巻 たのしい勉強 定価 9,350円(税込) ISBN978-4-87733-972-2
- 第5巻 おかあさんのお勉強、おかあさんの机 定価16,280円(税込) ISBN978-4-87733-973-9
- 第6巻 わが子のしつけ方、母のために 定価19,250円(税込) ISBN978-4-87733-974-6

人間形成と社会 —学校・地域・職業 全III期 21巻

編・解説 ◆ 木村元 A5判/上製函入/クロス装 揃定価 313,500円 (税込)

第I期	学校方式の受容の諸相 全7巻 揃定価 104,500円 (税込) ISBN978-4-87733-652-3 (セット)
第1巻	学校方式導入以前の人間形成 定価11,000円(税込) ISBN978-4-87733-653-0
第2巻	学校による人間形成 —制度の導入と展開 定価17,600円(税込) ISBN978-4-87733-654-7
第3巻	店員養成の世界 定価13,200円(税込) ISBN978-4-87733-655-4
第4巻	丁稚と徒弟の養成 定価17,600円(税込) ISBN978-4-87733-656-1
第5巻	産婆・看護の学校方式化 定価11,000円(税込) ISBN978-4-87733-657-8
第6巻	学校方式の問い直し 定価18,700円(税込) ISBN978-4-87733-658-5
第7巻	学校方式の「郷土化」にむけて 定価15,400円(税込) ISBN978-4-87733-659-2
第II期	地域と学校による人間形成 全7巻 揃定価104,500円 (税込) ISBN978-4-87733-660-8 (セット)
第1巻	戦後新教育とコアカリキュラム 定価17,600円(税込) ISBN978-4-87733-661-5
第2巻	地域の動態と教育の計画 定価19,800円(税込) ISBN978-4-87733-662-2
第3巻	地域社会の女性と青年 定価12,100円(税込) ISBN978-4-87733-663-9
第4巻	学校統廃合・過疎問題 定価17,600円(税込) ISBN978-4-87733-664-6
第5巻	都市の住民の地域作り 定価11,000円(税込) ISBN978-4-87733-665-3
第6巻	地域社会と学力 定価19,800円(税込) ISBN978-4-87733-660-0
第7巻	地域社会に内在した人間形成言説 定価6,600円(税込) ISBN978-4-87733-667-7
第III期	人間・社会観連調整 全7巻 揃定価104,500円 (税込) ISBN978-4-87733-668-4 (セット)
第1巻	青少年人口の動態と労働事情に関する調査資料 定価14,300円(税込) ISBN978-4-087733-669-1
第2巻	青少年労働市場に関する調査資料 定価14,300円(税込) ISBN978-4-87733-670-7
第3巻	職業世界の新展開 定価16,500円(税込) ISBN978-4-87733-671-4
第4巻	職業指導と少年職業紹介 定価16,500円(税込) ISBN978-4-87733-672-1
第5巻	青少年労働市場と人間期の変容 定価15,400円(税込) ISBN978-4-87733-673-8
第6巻	現代教育機構解説叢書 定価16,500円(税込) ISBN978-4-87733-674-5
第7巻	社会の出産の手ほどき 定価11,000円(税込) ISBN978-4-87733-675-2

◎続刊予定◎

- 補完 島田喜知治旧蔵文書 2023年予定
- 第II期 学校・実践・関係団体 2023年予定
- 第III期 テキストとメディア 2024年予定

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋
TEL (03)3808-1821 FAX (03)3808-1822 http://www.kress-jp.com/

KRESS 株式会社クレス出版

2022.6.

文献資料集成〈学校から仕事への移行〉の形成

監修・解題 ◆ 木村元 解題 ◆ 丸山剛史

◆各巻収録一覧◆ 導入解説

- 第一巻 産業教育史 産業教育七十年史 文部省(雇用問題研究会、一九五六年)
- 第二巻 産業教育史(資料編) 産業教育七十年史(資料編) 文部省(雇用問題研究会、一九五六年)
- 第三巻 戦時下・戦後改革期の進路指導 新学制下の進路指導 文部省国民教育局監修文政研究会編(新紀元社、一九四四年)
- 第四巻 新制中学校と職業指導 新制中等教育指針 文部省関係各課長合著(新教社、一九四七年)
- 第五巻 職業教育並びに職業指導委員会・中央産業教育審議会関係文書(附録 佐々木亨・名古屋大学リポジトリ未収録資料) 大田周夫旧蔵資料(国立教育政策研究所教育図書所蔵) 森戸辰男関係文書(広島大学文書館所蔵) 戦後教育資料(国立教育政策研究所教育図書所蔵) 国立公文書館所蔵文書 辻田力旧蔵資料(国立教育政策研究所教育図書所蔵) 厚沢留次郎文書(国立教育政策研究所教育図書所蔵) 中央産業教育審議会中学校産業教育専門部会議事録及び関係文書 高校職業学科の教育学 佐々木亨(私家版、一九九六年) 技術・職業教育教員養成史研究の現状と課題(研究ノート) 佐々木亨(二〇〇二年)

お薦め先 ◎ 職業教育、進路指導、キャリア教育、教育社会学、教育史の研究者

◎ 教育系の学部・学科のある大学・短大図書館、教育研究所

- 小学校・中学校教師のための学習指導必携 各科編 初等教育研究協議会(日本教育用品協会、一九四七年)
- 学校で何を学ぶか 新教科の研究 勝田守一・石森延男・島田喜知治・木宮乾峰(新経営社、一九四八年)
- 第四巻(解題)
- 第五巻 職業教育並びに職業指導委員会・中央産業教育審議会関係文書(附録 佐々木亨・名古屋大学リポジトリ未収録資料) 大田周夫旧蔵資料(国立教育政策研究所教育図書所蔵) 森戸辰男関係文書(広島大学文書館所蔵) 戦後教育資料(国立教育政策研究所教育図書所蔵) 国立公文書館所蔵文書 辻田力旧蔵資料(国立教育政策研究所教育図書所蔵) 厚沢留次郎文書(国立教育政策研究所教育図書所蔵) 中央産業教育審議会中学校産業教育専門部会議事録及び関係文書 高校職業学科の教育学 佐々木亨(私家版、一九九六年) 技術・職業教育教員養成史研究の現状と課題(研究ノート) 佐々木亨(二〇〇二年)

※収録した原本書籍の状態によっては、文字の欠落や擦れ、頁の汚損等が見られます

●書店名

現代は、学校から仕事への移行関係が過渡段階にあり、模索の時期にあるといえるのではないか。学校を出て仕事に就くという、これまで当たり前のように学校と企業社会がつながっていた時代が大きく動揺している。これからの学校と仕事との関係を考える上でも、あらためて両者の関係がどのように作られ、現在から仕事への歴史的な位置を確認することが求められている。

日本においての学校から社会への移行関係は、両大戦間を経て戦後本格的に拡大され、一九七〇年初頭には確立する日本型企業社会においてつくりあげられる。そのなかで学校は、一方的に社会の要求に対応するだけでなく、独自に対応の論理をつくりあげていったことによって、固有な接続関係が生み出されたといえよう。

本資料集成は、この間の学校の制度基盤や性格を押さえながら、日本の〈学校から仕事への移行〉の形成がどのようになされてきたのかを探ろうとするものである。

本資料集成は三部から構成されている。第Ⅰ期（配本）では〈学校から仕事への移行〉の母体ともいえる日本の学校の制度的基盤や性格を押さえる基本資料を収録した。学校と社会との関係や〈学校から仕事への移行〉という課題がどのように埋め込まれているかを改めて確認するものである。補巻には戦後の学校と社会の接続の形成に関する審議会関係資料も含めた。

第Ⅱ期においては、〈学校から仕事への移行〉をどのように索引しようとしたかを示す資料を収録した。制度を支えた外郭団体、具体的なモデルを提示した学校や実践の動向、さらには社会の変動に対して独自に対応した教育の営みがわかる一連の資料を配した。

第Ⅲ期は、各期の教科書ならびに学校から仕事に関する重要な諸雑誌を収録した。教科書は何を教えるかという意図を集約したものであるが、実際にはその意図通り学び手に伝わるわけではない。どのように意図が実現されたかについての情報を得るには、その実践を紹介した諸媒体である関連雑誌を探ることが有用である。本資料集成では、一般的に入手しにくいテキストと学校から仕事への情報を扱っている重要な諸雑誌とを収録するとともに、幅広く関連雑誌の情報をリスト化して掲げた。

情報化の進展によって関連資料の入手が比較的容易になつてきているとはいえず、学校から仕事への移行の実態と意味を考えるための資料は未発掘なものも含めて少なくない。本資料集成では、入手が難しいものだけでなく、今まで注目されることがなかったものも収録した。さらに、基本的な比較的に知られていないものでも新しい位置づけを与えた。また、収録資料以外に、全体を眺望し、研究を進めていけるように関連雑誌の紹介もおこなった。加えて、これまで内容が共有されてこなかった重要な雑誌の目次リストを掲載するなど、今後の研究に資するように工夫を施した。

新制中學校の性格

新制度樹立の経過

六、三、三、四制を、半年に足りない準備で実施しはじめるというところは、東西の歴史に於て類を見ることのない破天荒な教育改革である。しかもその規模が大きく徹底していること、短日月に決行されたことなど、堪えてみればみるほど、おどろくより外はない、無謀とも見える大事業である。

これはいままの日本がなされていく運命的な歴史的必然であるとともに、日本真摯のための最大の方途としてわれらがみずからえらびとめる課題でもある。まわり道のように見えるかも知れないが、あまりにも準備不十分であるかも知れないが、いわゆる民主的な國家をつくらうとして國民のひとりひとりから生れかわるためには、これ以外には道はない。教育そのもの制度や内容を根本から建てなおして、六、三、三、四制を布きその手はじめて新制中學校制度を實施し、その上に第七年を義務制としたことは、日本が真正に平和的な文化國家として更生する最大の事件の實現に手をつけた。

第一章 新制高等学校教科課程の基礎

第一節 一般原理

新制高等学校は既に満足し、新しい教科課程が實施されたが、たゞ新制高等学校の形と各組とを取入れ、新しい教科課程の採用しただけでは不十分である。新しい教科課程のよって立つ基礎を整理することが肝要である。この章の目的は、校長、教員、教育委員会の委員、その他新制高等学校に關係ある人々が、これに対する理解を得る上での参考として示すことにある。

第三卷『新制高等学校教科課程の基礎』より

第四卷『新制中学教育指針』より

第五 産業教育七十年史年表

明治 元(一六)	【一】 農部・大蔵二省を分ける	明治 二(二七)	【一】 農部省を改組
明治 一(一七)	【二】 農部省を改組	明治 三(三三)	【一】 農部省を改組
明治 二(二七)	【二】 農部省を改組	明治 四(三九)	【一】 農部省を改組
明治 三(三三)	【一】 農部省を改組	明治 五(四一)	【一】 農部省を改組
明治 四(三九)	【一】 農部省を改組	明治 六(四三)	【一】 農部省を改組
明治 五(四一)	【一】 農部省を改組	明治 七(四五)	【一】 農部省を改組
明治 六(四三)	【一】 農部省を改組	明治 八(四五)	【一】 農部省を改組
明治 七(四五)	【一】 農部省を改組	明治 九(四七)	【一】 農部省を改組
明治 八(四五)	【一】 農部省を改組	明治 十(四九)	【一】 農部省を改組
明治 九(四七)	【一】 農部省を改組	明治 十一(五一)	【一】 農部省を改組
明治 十(四九)	【一】 農部省を改組	明治 十二(五三)	【一】 農部省を改組
明治 十一(五一)	【一】 農部省を改組	明治 十三(五五)	【一】 農部省を改組
明治 十二(五三)	【一】 農部省を改組	明治 十四(五七)	【一】 農部省を改組
明治 十三(五五)	【一】 農部省を改組	明治 十五(五九)	【一】 農部省を改組
明治 十四(五七)	【一】 農部省を改組	明治 十六(六一)	【一】 農部省を改組
明治 十五(五九)	【一】 農部省を改組	明治 十七(六三)	【一】 農部省を改組
明治 十六(六一)	【一】 農部省を改組	明治 十八(六五)	【一】 農部省を改組
明治 十七(六三)	【一】 農部省を改組	明治 十九(六七)	【一】 農部省を改組
明治 十八(六五)	【一】 農部省を改組	明治 二十(六九)	【一】 農部省を改組
明治 十九(六七)	【一】 農部省を改組	明治 二十一年(七一)	【一】 農部省を改組

第一章 大學入學の基準

進學指導といふことは、言葉も事實も昔の學校にはなかつた。勿論部分的には、優秀な生徒の爲に父兄に就いて進學させるとか、そつちよりはこつちが良くはないかと、勧告するとかいふことはあつた。併しそれは先生の個人的好意であつて、或は學校の進學率の問題であつて、學校教師の公務として、はつきり認められたのは、極く近頃の事である。併しそれが初等中等の學校で普通に行はれるやうになつても、高等專門學校では全然個人的問題として放任されてきた。

一昨年から、專門學校から大學に進む人數を平均一割とし、進學者には學校長の推薦を要することになり、狭りに進學せしめないといふ意味で進學指導的仕事をすることになつた。高等學校から大學に入るのには、高校によつては東大向け京大向けといふ風に分けて受

第二卷『産業教育七十年史』より